

民俗文化財等継承事業

片瀬ゆかりの伝統芸能を支援しており、片瀬こま保存会の活動に協力しています。片瀬こま保存会と片瀬・江の島まちづくり協議会が主催となり、4月に片瀬漁港、8月に片瀬しおさいセンターでそれぞれ片瀬こま大会を開催しました。また、2月には初の試みとなる講演会を開催し、普及啓発を図りました。



片瀬こま大会の様子

人材・情報バンクセンター事業

2023年10月28日・29日に行われた片瀬地区ふれあいまつりでは、運営サポートボランティア協力を募集し、地域活動に対する魅力やボランティア活動参加へのきっかけづくりを行いました。



ボランティア協力者によるテント設営、模擬店運営の様子



ボランティアセンター事業

片瀬地区ボランティアセンター「ひだまり片瀬」では、どなたでもお気軽に立ち寄れる地域の居場所を、月水金曜日の10時から15時まで開設し、スマホ相談・将棋・編み物のほか、子育て中の親子のための「にこにこ広場」を実施しています。また、第2水曜日には高齢者向けミニ講座として、介護や健康に関する講座を和やかな雰囲気の中で開催しています。



機関紙「ひだまり片瀬」

日程等お問い合わせの上、ぜひお気軽にお越しください。

その他活動の支援

「緑と花いっぱい推進活動事業」として、江の島入口の景観確保や防犯、環境浄化の観点から、弁天橋の花壇への花植えや水やり等の活動を支援しました。



弁天橋の花壇の雑草取りの様子

まちかど相談事業

片瀬地区ボランティアセンター事業では、毎週水曜日に地域の身近な相談場所として「まちかど相談」を開設しています。片瀬いきいきサポートセンター（片瀬地域包括支援センター）、鵠生園、コミュニティソーシャルワーカー（CSW）、障がい者地域相談支援センターの職員が、交代で相談をお受けします。相談は個室で、予約もできます。

広報事業ワーキング

片瀬の情報発信について検討し、片瀬地区ポータルサイトを見やすくするため、レイアウトを更新しました。また、地域回覧が市のHPに掲載されることを知ってもらうため、自治会・町内会に二次元コードの配布を提言しました。

スマホで見れます！



2年間の活動にご支援・ご協力をいただき御礼申し上げます。

令和5年度の活動結果を報告します！

「片瀬・江の島まちづくり協議会」では、片瀬・江の島地域の課題の検討や解決に向けたまちづくり事業に取り組んでいます。

令和5年度は、4つの部会等が6つの事業について検討を進め、子どもの防災をテーマにした事業や片瀬歴史マップを生かした講座の開催などを実施しました。

また、片瀬地区がより暮らしやすいまちになるためにはどうしたらよいか、皆さんの声を聴くため、昨年、10月にアンケートを実施し、その結果を踏まえ、3月2日にタウンミーティング（地区集会）を開催しました。この結果は、中面にてご報告します。地区集会でのご意見と、アンケート結果をあわせ、片瀬地区の自治町内会や地域団体へ情報を提供し、より良い地域となるよう検討を進めていきます。

当協議会は、片瀬地区の皆様のご理解、ご協力をいただき、2年の任期を終了することができました。4月からは、新たな委員による活動が始まります。引き続き、当協議会の活動にご理解とご協力をいただきますようお願いいたします。



タウンミーティングの様子

青少年健全育成事業

2023年11月23日に「子どもの防災」をテーマにした事業『片瀬のまちでぼうさいビンゴ!』を片瀬公民館と共催で実施しました。

当日の運営を片瀬地区青少年育成協力会や藤沢市危機管理課、防災士のファシリテーターの方々などにご協力いただき、22人の子どもと保護者が片瀬地区内を歩きながら、防災について学習しました。



まち歩きの様子（境川沿い）

片瀬・江の島歴史文化継承事業

2023年11月10日に「片瀬歴史マップ」を活用した片瀬公民館との共催事業『片瀬歴史マップめぐり～片瀬川に架かる橋 今昔～』を甘粕部会長を講師として開催しました。

橋を調べると様々な発見があり、また架け替えられる前の橋の様子に懐かしさも感じます。橋の魅力伝えるため、秩父宮記念体育館から江ノ島大橋までの橋の説明する予定でしたが、雨天のため西浜橋まで歩いた後、片瀬しおさいセンターで座学を行いました。



歴史マップめぐりの様子

2023年度（令和5年度）片瀬・江の島まちづくり協議会（片瀬地区郷土づくり推進会議）役員・委員名簿

役職	氏名	選出母体等	氏名	選出母体等	氏名	選出母体等
会長	畠山 義昭	片瀬地区自治町内会連絡協議会	徳江 紀子	片瀬地区青少年支援フォーラム	山口 大助	公募
副会長	甘粕 寿一	片瀬地区自主防災協議会	小原 美佐江	片瀬地区民生委員児童委員協議会	桐生 留美子	公募
副会長	澁谷 晴子	片瀬地区社会福祉協議会	甘粕 勇二	片瀬地区防犯協会	福島 規恵	公募
副会長	三背 由見子	片瀬地区青少年育成協力会	阪井 久江	片瀬-市民スポーツの会	近藤 信行	公募
副会長	甲斐 由美子	公募	岩田 克美	片瀬地区老人クラブ連合会	保川 昌弘	公募
	飯森 美智代	片瀬地区交通安全対策協議会	渡辺 英雄	江の島振興連絡協議会		
	吉見 美江	片瀬地区子ども会連絡会	依藤 光雄	片瀬地区商店会		
	藤原 恭子	片瀬地区生活環境協議会	岡田 勝治	公募		



「片瀬地区 みんなで話そう タウンミーティング」 ～「みんなが参加したくなるまちづくり」を目指して～

タウンミーティング

2024年3月2日(土)タウンミーティング(地区集会)を開催しました。参加者は、会場30人、オンライン3人と、協議会委員13人の合計46人となりました。第一部は、「まちづくり協議会 令和4・5年度の活動報告」として、当協議会2年間の活動及び各部会等で実施した事業を報告しました。また、第二部は、10月に実施したアンケート結果の報告後、参加者によるグループトークを実施しました。

今回のタウンミーティングを通して、「片瀬地区は

とても暮らしやすい、人とのつながりがあるまちである」と片瀬地区への思いを感じることができました。この思いを未来へつなぎ、地域のつながりが強くなるよう、さらにたくさんの方にまちづくりに参加していただける片瀬地区を目指していきます。

また、皆さんからいただいたご意見は、当協議会で地域課題として捉え、自治町内会をはじめとする片瀬地区内の様々な地域団体と共有し、地域活動の参考としていきたいと考えています。

グループトークでの主な意見

- ・環境としては暮らしやすいが、地域住民とのつながりが見えにくい。
- ・防災のことを考えるとつながりが必要である。町内会と言われると引いてしまう人が多い。
- ・マンションがたくさんできて昔からの人、常住者が少なくなっている。
- ・夜勤の仕事などで地域活動は難しい。
- ・防災を考えると地域のつながりが必要。
- ・地域活動にどうしたら参加出来るのか?知らない人が多い。
- ・SNSの発信や活用など。
- ・片瀬は出会う方みんな良い人。自信と誇りが持てる街に。
- ・子どもたちが将来まちづくりに参加できるように子どもたちとの防災イベント、お祭り参加で地元愛を育む。
- ・スマホ教室などで若いママが講師となっている。若干の謝礼は必要。
→やりたい人はママ同士で広げる。また、ボランティアにどうつなげるか。
- ・まず、自治町内会に関係のある若い人を巻き込むことが重要。
- ・子どもの施設(預かり)が海岸の方にはなく、観光が主になっている。
- ・自然豊かな地域ではあるが、公園が少なく、公園に行っても子供がいない。
- ・子どもと参加できるイベント、手軽に参加出来るイベントが良い。
- ・親子で参加しやすい催しものを多く企画して欲しい。
- ・組織を作るよりも、やりたい人がやりたいことをやる。
- ・まず、知り合うきっかけを。
- ・自分たちが楽しくやっていたらよいのでは。
- ・ゴミが多いと環境、防犯等に問題。
- ・無償は今の時代に合わない。



グループトークの様子

タウンミーティングのグループトーク、アンケートの詳細は、市ホームページおよび、片瀬市民センター窓口でご覧いただけます。



ホームページはこちら →

<https://www.city.fujisawa.kanagawa.jp/kata-c/kurashi/shimin/chiki/katase/kyogikai/index.html>

アンケート集計結果(抜粋)

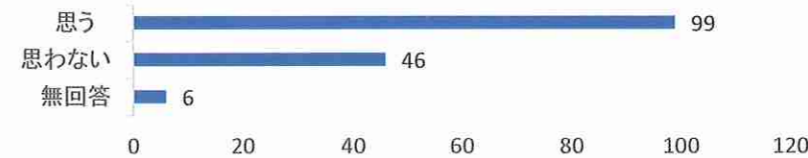
『みんなが参加したくなるまちづくり』とはどういう事なのか、片瀬地区に関わりのある皆様の声を聴かせていただき、片瀬地区が「より暮らしやすいまち」となるためのヒントをいただきたく、アンケートを実施しました。アンケートへの協力に御礼申し上げますとともに、結果を報告します。

実施期間 2023年10月5日から11月10日まで

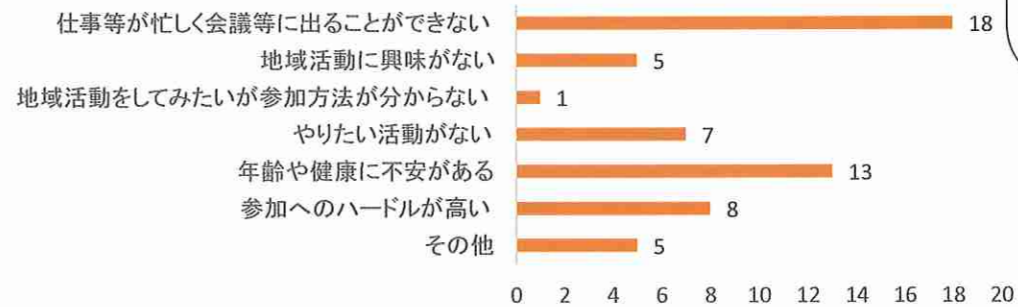
回答人数 151人(うち電子回答97人)



問7 地域活動に関わりたいと思いますか?



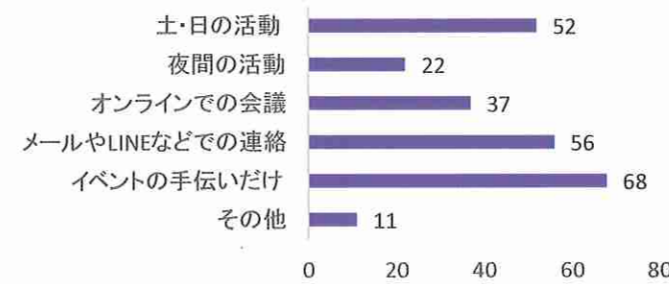
7-1 思わないと回答した方の理由



問7、7-1から見えること
地域活動に関わりたくない人は、「仕事等が忙しい」、「年齢や健康に不安がある」などの理由を挙げており、「休みの日の有効活用」や「無理をしない」のできる活動を検討し、地域活動に対して興味関心を持ってもらうことが必要ではないか。



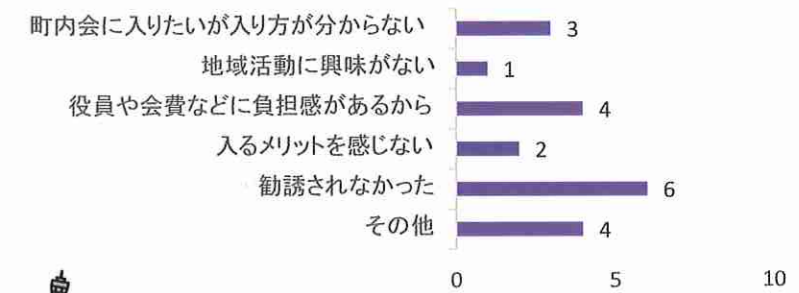
問9 地域活動に参加するとしたら、どの様な方法であれば参加することができると感じますか?(複数回答可)



問9から見えること

「土日がいい」「イベントの手伝い」「連絡はメールやLINE」など、「隙間時間」を活用し、誰でも気軽に参加できる活動に対するニーズは高い。また、連絡手段はメールやLINE等デジタル化を望んでいる。

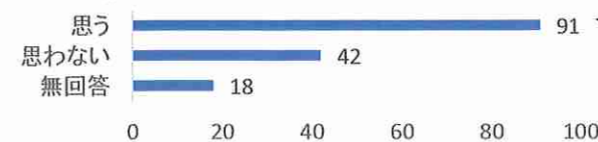
問10-1 町内会に入っていないと回答した方の理由



問10から見えること

「町内会に関する情報のアナウンスが必要」「知ってもらうにはどうしたらよいか」を考えていくことが必要ではないか。

問12 地域の「担い手不足」解消のためにボランティアも有償であるべき、との声もあります。有償なら「担い手」として地域活動をやっても良いと思いますか?



問12から見えること

ボランティアでも何かしらの「報酬」は必要な時代になってきている?